

2015年3月発行

【発行】学び舎江戸東京ユネスコクラブ

事務所：〒187-0032 小平市小川町 1-904-56

<http://www.unesco.or.jp/manabiya/>

E-mail: manabiya@unesco.or.jp



小平市市民活動支援公募事業

「第4回学び舎ユネスコ教養文化講演会」開催

2015年2月22日(日) 小平市中央公民館ホールにて

テーマ「玉川上水の豊かな水と緑とは? —歴史・自然と文化財—」



講師 亀山 章氏
東京農工大学名誉教授
日本自然保護協会理事長

東京の宝「水と緑の回廊・風の道玉川上水」の歴史と文化を未来の子供たちに守り伝えようと企画しました。講演と質疑を合わせて2時間があったという間に感じたほどの盛り上がりでした。講師のわかりやすいお話に参加者の方々には「大変良かった」との声をいただきました。会場一杯の皆様においでいただき誠にありがとうございました。

(以下講演要旨掲載)

- ① 私たちがすむ武蔵野台地は多摩川と富士山が作ったもの。
- ② 武蔵野台地の地形・地質と関東ローム層、段丘崖と湧水のこと。
- ③ 江戸・東京と多摩の違いは、水が得られた時代の長さの違い。
- ④ 神田上水・溜池など千川上水・品川用水などの江戸の六上水と江戸の発展、そして享保の改革で今日の多摩の下地ができたこと。
- ⑤ 玉川上水からの分水網と用水路が張り巡らされ、水車が架けられ、精米・製粉・織物などに利用されていたこと。
- ⑥ 江戸の町の発展も生活もすべてが水の恩恵あればこそその江戸であり、多摩である事。とりわけ歴史文化と文化財の考え方、名勝「小金井桜」は花見と江戸近郊の地域振興として、江戸の人々のレクリエーションの場として重要だったこと。

その宝の水こそ「玉川上水」と様々な角度からわかりやすく明快な語り口のお話に皆さん納得でした。

「立川面は古くから豊かでした。武蔵野面の小平などは、貧乏でした。何が違ったか。それは水があったか無かったかなのです」と遙か昔から開けた今の府中市など国府の置かれた立川面と水のなかった武蔵野面の昔の小平に触れられたときは、小平の皆さんは「苦笑」の連続でした。まさに水の恩恵があったか無かったか。玉川上水の水がいかに生命の水として大きな力になっていたか何としても100年後の子供たちに守り伝えねばと感じました。

ご多忙の中、小林市長も最前列にて参加されておられました。亀山先生には、25人の質問にもすべてお答えいただきました。参加の皆様をはじめ、来賓の皆様を重ねて御礼申し上げます。



「学び舎ユネスコ 2015 年度総会 及び 教養・文化連続講座」のお知らせ

日程 : 2015年6月14日(日) 総会 13:30~ 連続講座 14:45~
会場 : 小平市中央公民館 2階 講座室2